ボリビア「スポーツごみ拾い（スポGOMI）」

2022年10月28日

競技前にごみ袋を持ってラジオ体操を行う参加者

背景/課題

ボリビアのほとんどの自治体同様、ラパス県ソラタ市ではごみ収集、投棄場の維持管理、水質・土壌汚染といった衛生問題を抱えている。自治体と市民が一体となって廃棄物処理に取組む必要があるが、特に市民の環境に対する意識が低いため、市内や河川へのゴミのポイ捨て・不法投棄等が常態化している。

目的

- ラパス県ソラタ市民のゴミに対する意識が向上し、リサイクルが推進され、ポイ捨て・不法投棄が減少する。

活動内容

- 草の根技術協力の実施機関である（NGO）DIFARが持つ知見を活用し、ラパス県ソラタ市でスポーツごみ拾い（スポGOMI：決められた場所でチームごとにごみを集め、その量と質でポイントを競い合う日本発祥のスポーツ）のイベントを開催
- イベントの前日に市役所職員、学校関係者・生徒を対象にゴミの分別について研修を実施

成果

- （NGO）DIFARに配属された「廃棄物処理」のナショナルボランティア（試行的に実施したボリビア国内の青年によるボランティア事業）1名、NGO職員（元JICA海外協力隊員）1名、JICA職員1名、企画調査員（ボランティア事業）1名が、市役所職員約10名と協働し、市民約70名の参加者と共に約250kgのごみを収集した。